

タマネギ (ユリ科)

早植えて冬までに大きくなると、トウ立ちや分球しやすい。遅いと収量が上がらないので適期に播種・定植する。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
早	生				収穫					播種		定植	
	中												
晩	生												

1) 適地

早生種は地温上昇が早い軽い土で栽培されることが多いですが、一般にやや粘質な所を好みます。冬の乾燥の強い所では枯れやすく、収穫期に水はけの悪い所では、腐敗が多くなります。酸性土に弱いので石灰の施用が必要です。

2) 品種

早生品種は、8月頃まで保存しておくことができますが、腐りやすいので早めに食べるようにします。

早生品種：マッハ、ソニック（貯蔵可能期間：8月末）

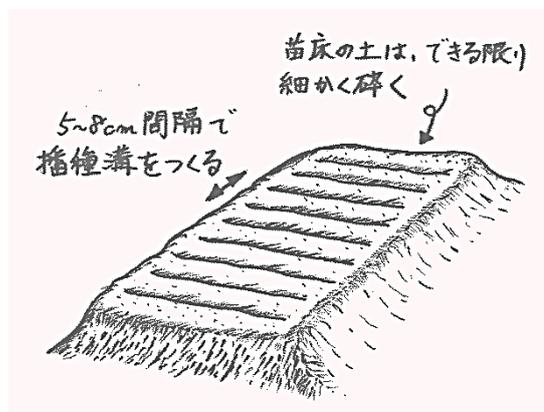
晩生・中生品種：O・K黄、ネオアース、もみじ3号（貯蔵可能期間：11月末）

3) 作り方

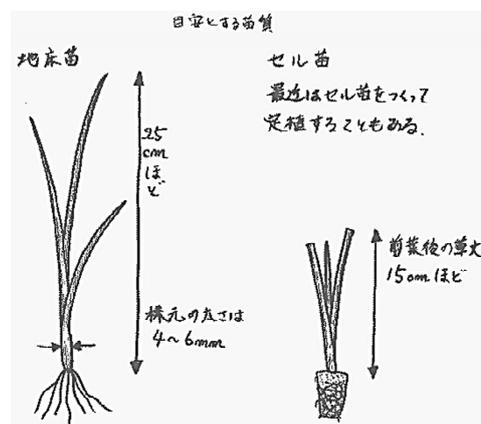
【苗床の準備】播種の10日前に1㎡当たり堆肥2kg、苦土石灰100g、過りん酸石灰40g、高度化成肥料20gを施し、幅130cmで高さ15cmの播種床を作ります。播種床は、苗が取りやすい砂地の方が適しています。

【播種】条間5～8cmぐらいの間隔で条播きにします。薄く覆土し、発芽まで稲ワラをかぶせて乾燥させないようにします。播種は、早生品種は9月15日前後、晩生品種は9月20日前後に行いましょう。早播きしすぎて大苗で定植するとトウ立ちしやすくなります。トウ立ちは、植物体の大きさと低温、そして低温にさらされる期間によって決まります。茎の直径が1cm以上で、0～5℃に30～60日以上遭遇すると花芽の形成が促進されます。そのため、早植えすると年内に生育が進み過ぎ、早春には地上部が大きくなって低温遭遇しトウ立ちします。

なお、近年では露地に苗床を作らずに、セルトレイに播種し、育苗する方法も増えてきました。この



苗床の作り方



よい苗の草姿

方法は、機械定植などの場合に使用されていますが、ここでは説明は割愛します。

【苗床の管理】発芽して本葉2枚程度の頃、除草と間引きをした後に1m²当たり低度化成肥料を30g施用します。コオロギによる食害を防ぐため、寒冷紗などで覆っておくとよいでしょう。

【圃場の準備】定植1か月前に1m²当たり堆肥を2kg、苦土石灰150gを施用しておきます。定植1週間前に緩効性肥料100gを施し、幅130cmの畝を立てます。

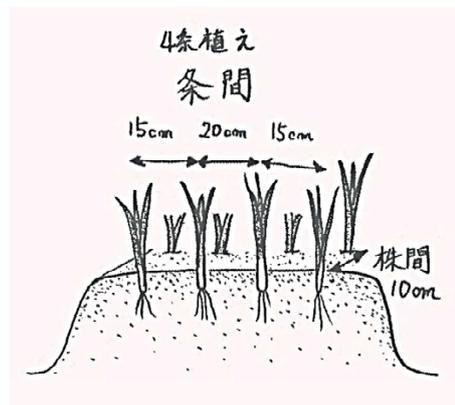
【定植】できるだけ根を切らないように苗取りをします。特に大きな苗や小さな苗を取り除き深植えにならないように、深さ2cm程度に定植します。定植は、条間20cm、株間10cmとします。早生品種ではマルチ栽培も可能で、この場合、マルチに指で穴を開けながら定植します。なお、貯蔵用品種はマルチ栽培にはあまり向きません。

【追肥】1m²当たり高度化成肥料30gを、早生や中生は2回、晩生は3回施用します。1回目は12月中下旬頃、2回目は2月上中旬頃、3回目は3月上旬頃が適期です。特に晩生品種では、3回目の追肥が遅れると貯蔵中に腐りやすくなるので気を付けましょう。

【収穫・貯蔵】地上部が80%程度倒伏した頃に収穫します。2～3日間晴天が続いた後に抜き取り、半日～1日乾燥させてから、風通しのよい日陰につるして貯蔵します。

4) 病虫害防除

べと病、さび病等が発生します。特に冬から春にかけて、温暖多雨の条件下では多発します。排水に努めるとともに、定期的に農薬を予防散布します。



定植方法



定植直後の圃場



収穫前の状態

★タマネギのセット球栽培（11～12月どり）

品 種：シャルム

作り方：2月下旬～3月上旬にトンネル内に種を播きます。5月中旬に球茎が1.5～2cmのものを掘り上げ日陰につるして貯蔵し、8月下旬に定植します。定植後は速やかに萌芽させることが重要で、通常は地温を下げるために白マルチを張って植付けます。11～12月頃には新鮮なタマネギが収穫できます。最近、園芸店でセット球を売っているので利用できます。